

＜緩和ケア部会：平成28年度事業計画＞**1. 年4回以上、緩和ケア研修会企画、実施の調整をする**

拠点病院以外の開催可能な病院と連携し修了者が増加するよう強化する。平成29年3月までに拠点病院に勤務する医師の90%、拠点病院の研修医（2年目～5年目）の100%修了を目指す。

実績：9回開催したが、医師の修了目標は達成できなかった

評価：8点

**2. 緩和ケアフォローアップ又は在宅緩和ケア研修会を開催する**

基本的な緩和ケア研修会修了者を対象にフォローアップ研修会を行う。

実績：3月に開催予定である

評価：10点

**3. 在宅緩和ケア地域連携事業を強化する**

(1) 在宅緩和ケアマップの改訂を行う。

(2) 症状緩和を目的とした緩和ケア関連の地域連携クリティカルパスの運用と評価。

実績：改定を実施しなかった。クリティカルパスも運用していない。

評価：0点

**4. 苦痛の評価を行い対応する**

(1) スクリーニングを行う。

(2) 除痛率調査を行う。

(3) 気持ちのつらさに対応していく。

実績：実施しているが、気持ちのつらさの対応は十分ではない。

評価：8点

**5. 看取りを施設で行うための勉強会を後援する**

実績：部会委員が勉強会に協力している。

評価：10点

**6. 地域の緩和ケアが適切に行われているかホスピス病棟を持つ病院、在宅医療との連携を強化する**

現状を分析し、把握する。

問題点を改善していく。

実績：分析・把握・問題点の改善にはまだ至っていないが、3か月に1度交流会を持っている。

評価：7点

**7. チーム医療体制を強化する為に基礎データ収集を行う**

昨年度に引き続き、理学療法士、緩和薬物療法薬剤師、同スキルナースの人数を調べていく。

実績：薬剤師は把握できているが、理学療法士と看護師は把握していない。

評価：3点

#### 8. 緩和ケアに対する認識を普及させる（一般向け）

県内の講演会等の開催を支援する。（がん治療から心のケアまで）

実績：部会委員が講演会に協力しているが、まとまって行ってはいない。

評価：3点

#### 9. 患者会へ後援する

患者会を後援する、又は講演会の開催。

（部会委員が患者会にて講演を行う際に、部会名を共催に入れてもらうようお願いする）

実績：実施した。

評価：10点

## ＜緩和ケア部会：平成29年度事業計画＞（案）

### 1. 緩和ケア研修会の企画、実施の調整をする

拠点病院以外の開催可能な病院と連携し修了者が増加するよう強化する。平成29年6月までに拠点病院に勤務する医師の90%、拠点病院の研修医（2年目～5年目）の100%修了を目指す。

### 2. 緩和ケアフォローアップ又は在宅緩和ケア研修会を開催する

基本的な緩和ケア研修会修了者を対象に研修会を行う。

### 3. 苦痛の評価を行い対応する

- (1) 苦痛のスクリーニングをがん診療を行っている専門医療機関及び緩和ケア病棟（ホスピス）のある医療機関で行う。
- (2) スクリーニング結果のフィードバックを行う。

### 4. 緩和ケアチームの機能を強化する

- (1) 沖縄県内の各病院の緩和ケアチームのデータの収集を行う。
- (2) 沖縄県内の各病院の緩和ケアチームに対する研修を行う。

### 5. 施設相互訪問を行う

# 緩和ケア部会2017年度ロジックモデル(案)

## 個別施策

## 中間アウトカム

## 分野アウトカム

がん診療連携拠点病院を中心に、精神的痛みを含む痛みのスクリーニングを実施する

1. 運用のための事務局の設置
2. 県共通プロトコルの作成
3. スクリーニングのための研修会の開催
4. 実践

がん診療連携拠点病院の緩和ケアチームが中心となって、他の医療機関との相互連携による患者及び家族の利便性を重視した緩和医療を提供する

1. 緩和ケアチームのデータ収集を行う
2. 緩和ケアチームや緩和ケア病棟の医療従事者への研修機会・情報の提供を行う

1. 緩和ケア研修会の企画・実施の調整をする
2. 緩和ケアフォローアップ研修会を行う
3. 緩和ケアチームに対する研修を行う

緩和ケアの中期(5年)ビジョンが策定され、そのビジョンの実現に向けて組織的に活動している

すべてのがん患者とその家族が、がんと診断されたときから質の高い緩和ケアを受けている

すべてのがん患者とその家族が、(基本的または専門的な)緩和ケアを実践できる医療従事者や、患者の状態に応じた切れ目のない連携体制によって、がんと診断されたときから質の高い緩和ケアを受け、身体的・精神的・心理・社会的苦痛が軽減され、療養生活に満足している